



浮とせりりい丸のて坊
仙水

礼の月和琴ひふふの風喜ふ
灌花

雲
美髪とあけて大籠ふて酒
蘭臺

雲
昔の女のやるハハ
女臺



剛はくしんふんかみあまのき
龍雨

子う海とくしんある印
宣徳

月の底まうしんあつ松のき
玉洲

らまらふしんある
執筆

表

平儀之歌のみよきてし
物
仙花

うなつんこて他林持
里夕

けぬやいしぬ肉どなりし
桃矢

北の歌とかなる親し
投厄

あのみよふしと名だたむ
和双

らうらとぞんのみんまらるる
星雲

雪
うらハチ姫押ハのやふ
連梅

このそら離てと月法月法
雅双

日
秋のぬ酒よすり
一志

あふまふし

梧桐柔ふて
玉洲

日
移るよまふし
真徳

かたて
桃矢

末いげぬ五月申しものるまね 星雲

よらとゆらんすしつ流ぬるま 女

お千枝ふはる万里のこころ 屋 星夕

河津よどいおのちおのち 女 一志

胸の封切りしけしん隠れかて 仙水

空催ぬる早 地を石壇 灌苑

かゝぬおの御尋の念かた 如月 投危

つを升ておんんいの粟 連栞

復てよよさるるを 花の果 雅双

流の音 伝ふるを 蔵の基 龍雨

雪 月の具 柱伝くを 春 和双

いさよめいっくいな 海京の系 仙花

燕 ね

雪 己の刻 せむを ねど ね 蘭臺

物の変 化と なるの字 投厄

ふのほで 攝師と 号 甲斐 又 新 星雲

月 美人 なるを 伝ふ 歌 連栞

つとむるに由業と後の子六 玉剛

とらふるにとらふるにとらふるに 里夕

後行いとハ梅名の母と我 仙水

二冊と干して 眞徳

萩野あまももと若ふせぬ五弓 龍雨

いふ業のゆに匠にむ綿解はは 灌苑

とらふるにとらふるにとらふるに 蘭皇

肌の若ハ詢として 雅双

老紫ハ娘カグ天虫カのカいありて

仙苑

燕カも子カハ梁カりカハ瘦

女室

月カハ目カらカハ早カくカハ

連栞

御カ多カもカとしてカ桂カまカのカ地カの

柳矢

宝篋

離カるカハ命カりカハ欲カのカみカ

玉詞

道カハりカハカれカもカをカ

執業

沙カ持カセカのカ海カ母カハカねカがカくカのカまカ

投卮

虎カとカんカがカりカしてカ鹿カ母カあカるカ

一志

芳坊も唐も花もは成り
和双

今もいよとくは百好のそ
蘭堂

静澄に花も花もは秋夜
灌花

あもきくもと常とは
真徳

雪隠

心

あもきくこの魂と
投危

静の境
星雲

あもきくは四景丸
鞠
玉測

あもきくも可くて
雅双

一寸の注連で三人魔とくし
わけ 仙花

くまのよは御さる虫屋賣
恒徳

はくそいも山お群が空作
灌花

流し如し流まるぬ回
一志

鼻もそいもいあもるが
象の 雅双

ふ限が流しうり科の負病
玉測

七福もるんは流しのめ藏
墨雲

刺子の地の棚のえうむ上代
蘭臺

雲
山嶺と接して山へや花の空

仙水

しらの海にまゝてあり

熱筆

名

波をぬくう丸形にぎ

連柙

唐申ハモト細の雲

挑矢

右

お遠人の御女がかる流田

龍雨

うがの枝と脈の塩梅

女莖

借まハハれ芦刈の空の辰

星夕

飛
秋を秋らハハ白丁の池

和双

牛車二の車や糸の如く
一志

ふてつる月流徑の幸
連輝

ちねの多きやんれ少く
衆

打らよ痛む眼みらのみ
龍雨

るるの百目紅は面奥のこ
仙苑

了らつてしらふと教る
星又

うかろくもさるていさ
星雲

うほもも行ぬと縁のよ
一志

竹屋の窓照近国

カヤキ
離て

蘭臺

分枝活況奪中庭

和双

早稲まといでまきいぐさ

恒徳

名水溜るるこハ行ぬ

槌矢

芥

お囀りうるま^{こい}あはれは後

投危

狐ハ倦

師志願

葉

水の中ハハの花を子初

雅双

二はよふまき

執筆

いし



各六句

五十四魚

蘭臺

皆

隱登龍

雲

四

朱

三十九

巨德

全

三字

月

雲

朱

長

二十六

一志

全

三字

月

二十五

連柵

全

月

雲

朱

長

二十四

仙花

壽

花

月

朱

長

二十一

和双

皆

花

雲

朱

二十

桃矢

晉

月

雲

十七

投卮

皆

雲

朱

長

十六

仙水

全

雲

朱

長

十五

星父

全

雲

長

十四

女董

全

雲

朱

雅双

全

雲

朱

十二

星雲

全

雲

長

九点 玉渊 皆长_三

八、 灌花 全长_二

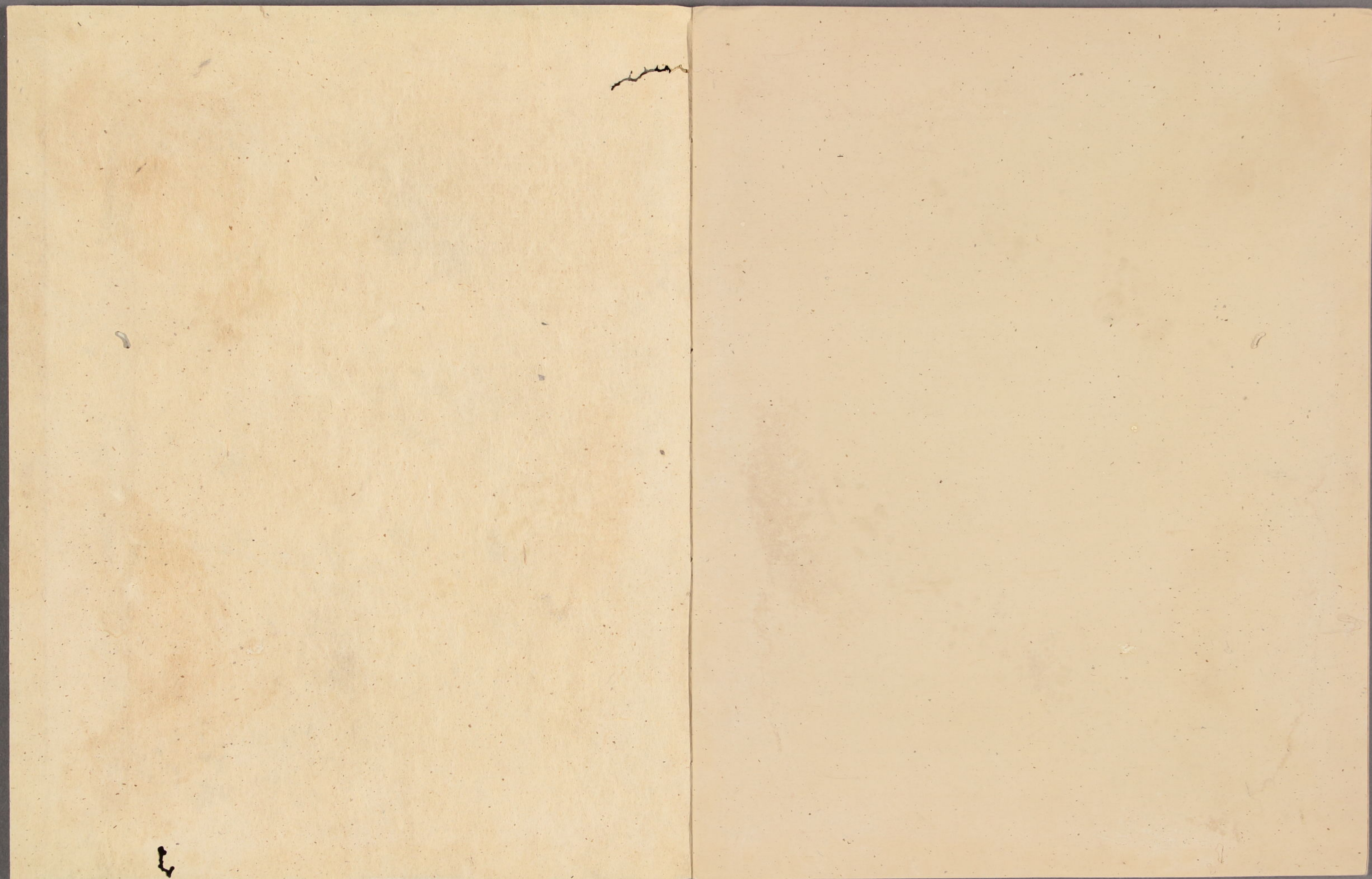
七、 龍雨 全长

執筆四句 二句矣

享保十五_戌歲十二月三日 向屋敷與行



1.





下

百韻

百韻

隱史

隱史

享保十五年十二月三日
於向屋上敷



12

15
11